

映画  
(続編)

# ぼけますから、よろしくお願ひします。 ～おかえり お母さん～

上映会

市では、令和4年度に引き続きドキュメンタリー映画の上映会を開催します。市民の皆さんが映画を通じて、自分だったらどのような最期を迎えたいかを考える機会となること、人生会議（ACP）の普及を目的としています。ぜひご参加ください。

日時…2月10日(出) ①9:30～12:00 / ②13:30～16:00

場所…市役所2階会議室

内容…二部構成で行います。

(一部) 主催者挨拶・見どころ紹介・映画上映 (101分)  
＜途中休憩あり＞

(二部) 交流会

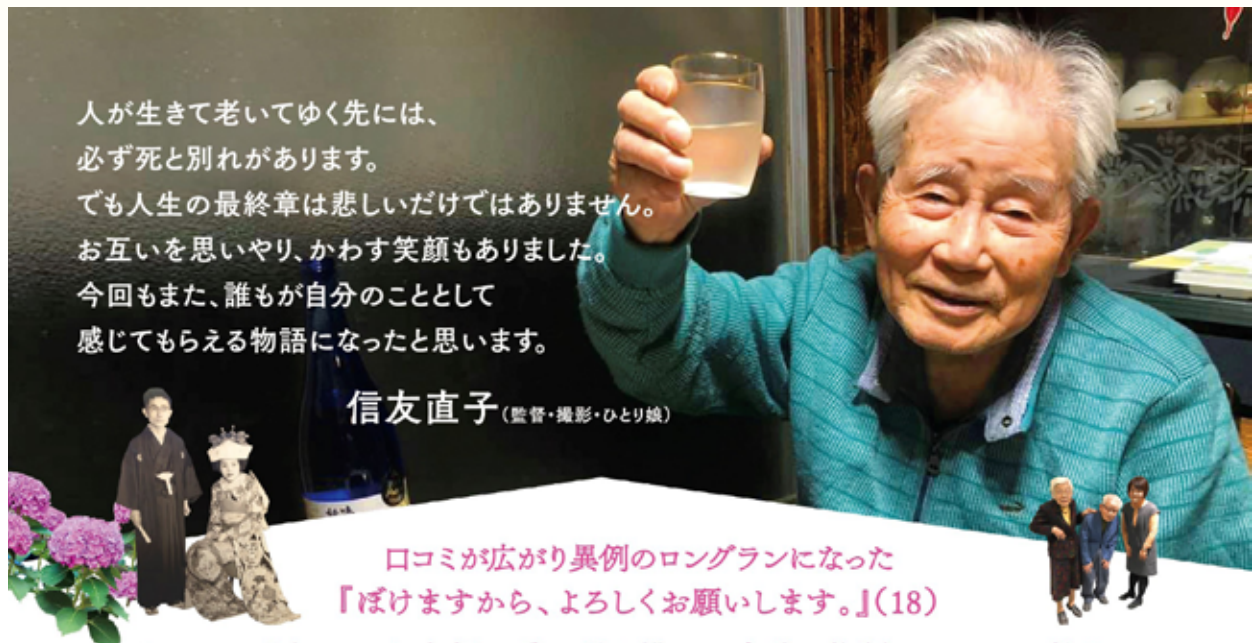
ファシリテーター 白生会胃腸病院 地域連携室長 原田恵子氏  
テーマ 「人生の最期の迎え方を考えてみよう」 (25分)  
～映画の感想を共有しましょう～

定員…各回50名 (先着順) 料金…無料

申込方法…2月5日(月)までに、電話・FAX (様式自由)・メールにて、  
氏名・電話番号・年代をお知らせください。

問い合わせ・申込先…地域包括支援課 内線2462/FAX34-1018

電子メール [hokatsu@city.goshogawara.lg.jp](mailto:hokatsu@city.goshogawara.lg.jp)



あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母、アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願ひします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——